珠洲市

正 院 小 路 遺 跡

２００７

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター

正院小路遺跡（しょういんこうじ）

２００７

石川県教育委員会
（財）石川県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は正院小路遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は珠洲市正院町小路地内である。

3　調査原因は県単道路改良事業（主）折戸飯田線であり、同事業を所管する石川県（土木部道路建設課）が、石川県立埋蔵文化財センターに発掘調査を依頼したものである。

4　現地調査は石川県立埋蔵文化財センターが石川県（土木部道路建設課）から委託を受けて昭和60（1985）年度に実施した。出土品整理は石川県立埋蔵文化センターが（社）石川県埋蔵文化財整理協会に委託して昭和61（1986）年度に行った。報告書刊行は（財）石川県立埋蔵文化センターが石川県教育委員会から委託を受けて平成18（2006）年度に実施した。

5　調査に係る費用は、石川県（土木部道路建設課）が負担した。

6　現地調査は昭和60年度に実施した。期間･面積･担当課･担当者は下記のとおりである。

期　間　昭和60年９月９日～同年10月８日

面　積　800㎡

担当者　山本直人（当時主事）

7　出土品整理は昭和61（1986）年度に実施し、（社）石川県埋蔵文化財整理協会が担当した。

8　報告書の刊行は平成18（2006）年度に実施し、調査部調査第３課が担当した。執筆、編集は山田由布子（調査部調査第３課嘱託調査員）が行った。

9　調査には下記の機関の協力を得た。

石川県土木部道路建設課、珠洲市教育委員会

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターが保管している。

11　本書についての凡例は下記のとおりである。

(1)　方位は真北である。

(2)　水平基準は海抜高であり、T．P．（東京湾平均海面標高）による。

(3)　出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

(4)　遺物実測図については須恵器の断面を黒塗りとした。

目　次

第１章　遺跡の環境 …… 1
第１節　地理的環境 …… 1
第２節　歴史的環境 …… 1
第２章　調査の成果 …… 4
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 4
第２節　遺構と遺物 …… 5
第３章　ま と め …… 5

挿図目次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　周辺の遺跡 …… 3
第３図　調査区位置図 …… 4
第４図　遺構実測図 …… 6
第５図　遺物実測図１ …… 7
第６図　遺物実測図２ …… 8

表 目 次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 3
第２表　土器観察表 …… 8

図版目次

図版１　調査着手前（北から）／表土除去風景
図版２　調査風景（南から）／溝の完掘状況（東から）
図版３　遺跡全景１（南から）／遺跡全景２（北から）
図版４　調査区西壁１／調査区西壁２
図版５　出土遺物１
図版６　出土遺物２

第１章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

正院小路遺跡は珠洲市正院町小路地内に所在する。珠洲市は石川県の先端に立地し、北・東・南の三方を海に囲まれ、西側に輪島市、南西側に能登町と接する。珠洲市の地形は市域北西部に宝立山地、その南東側をふちどる丘陵地、海成段丘群、沖積低地が占める。宝立山地は宝立山（469m）を最高峰とし、水山（405m）、猫ヶ岳（413m）、見平岳（378m）、鞍坪岳（366m）などが連なる。市域の大半はこれら山地やそれを取り巻く丘陵地が広がり、そこから海岸線までの間を海成段丘、沖積低地が広がる。海岸は市北部の外浦と南東～南部の内浦に大別でき、外浦が突出した岩石海岸であるのに対し、内浦は比較的なだらかな海岸線である。正院地区は内浦に面し、当遺跡は砂丘地から後背湿地への境界付近に立地する。正院地区の西側を南北方向に流れる金川が日本海に注ぎ、金川の西側には市内で最も長大な河川である若山川が流れ、これら河川の下流域で比較的広い平野が存在する。遺跡から海岸線までの距離は約100mを測り、調査区は正院町小路集落北側の道路脇に位置する。

第１図　遺跡の位置

第２節　歴史的環境

珠洲市内の縄文時代の遺跡は前期から晩期のものが見られ、約50ヶ所が確認されている。図幅から外れるが、若山町の井林遺跡、三崎町の雲津遺跡で縄文時代草創期のものとされる尖頭器がそれぞれ確認されている。当遺跡から北へ約2.3kmの地点に位置する正院町飯塚の飯塚遺跡（29）では、縄文時代中・後期の土器や打製石斧が確認されている。

弥生時代の遺跡は珠洲市域で数ヶ所しか確認されていない。図幅からは外れるが、若山川流域の出田遺跡、経念遺跡などが挙げられ、共に集落の縁辺部にあたると考えられている。

古墳時代になると、若山川及び金川流域の丘陵裾部では多くの横穴が作られるようになる。珠洲市域で確認されている横穴の数は北陸地方屈指であり、正院と隣接する熊谷町には熊谷羽黒山横穴群（16）、野々江町には野々江ハゲノマエ横穴群（９）が分布する。珠洲市ではこの他にも経念横穴群、永禅寺横穴群、鈴内山岸横穴群、鵜島・南黒丸横穴群などが分布しており、全部で198基の横穴が確認されているが、未調査のものを含めると500基を上ると推定されている。この内、岡田横穴群（３）、岩坂向林横穴群（８）では発掘調査、岩坂藤瀬山横穴群（１）、岩坂塚亀横穴群（６）などでは実測調査が過去に行われている。これらの横穴から、６世紀後半～７世紀末の須恵器などが出土しており、主に7世紀代に集中して作られたと推定されている。

古代における珠洲は越前国能登郡であったが、養老２年（718）に能登国珠洲郡となり、他に羽咋・能登・鳳至の３郡が設けられた。「正院」の地名は、古代律令期の能登国珠洲郡の郡衙や正倉が

おかれたことに由来するとされる説があり、正院町小路から正院にかけての一部地域では、ほぼ真北線に基づく古代の方形区画が認められる地割が存在する。平安時代末期頃になると正院を含めた周辺地域は「珠珠正院」となり、珠洲郡内の国衙領域としてあらわれる。康治２年（1143）の源季兼寄進状には真脇村が同院の中に含まれているのが見え、この頃には珠珠正院の領域が現在の能登町真脇にまで広がっていた様子がうかがえる。しかし上述の文献等に「正院」の名称があらわれるものの、当遺跡周辺では古代の遺跡について確認されておらず、この地域における古代の歴史像は不明である。

中世能登では最大となる若山荘が康治２年に成立し、その荘域は現珠洲市の大部分と能登町内浦に及ぶものであったことが当時の文献資料からうかがえる。正院はこの若山荘の東側に位置し、正院地区の西側を流れる金川が若山荘との境界であったと考えられている。「珠珠正院」から鎌倉時代前期には「珠々正院」、南北朝期には「正院郷」と呼ばれ、領域がその度に再編されていたことが文献から知ることができる。なお、当遺跡周辺における中世の遺跡数は多く、熊谷町の本江寺跡（15）や正院町正院の正院館薬師遺跡（18）、正院町川尻の黒滝経塚（23）、正院川尻城跡（黒滝城跡・24）、カリヤス坂遺跡（26）が挙げられる。本江寺跡や正院館薬師遺跡では五輪塔や板碑などの中世の石造遺物が確認されている。本江寺跡は熊谷町の水田中に供養塔１基が建っている付近が寺のあった場所と伝承されている。正院館薬師遺跡は、住宅地裏の畑地に珠洲市指定文化財に指定されている29基の板碑と50基を超える五輪塔が集積されており、時期は15世紀後半以降と推定されている。また、蔵骨器に使用されたと思われる珠洲焼や越前焼の破片も散布しており、近くに中世墓地が存在していた可能性が高い。正院川尻城跡は、現正院町川尻集落の背後の台地に築かれた戦国時代の平山城である。昭和59年から61年の３ヵ年にわたって試掘・分布調査が行われた。調査により、５ヶ所の郭、郭を隔てる空堀、土塁などが確認され、珠洲焼、土師器、中国陶磁器などの遺物が出土している。

近世では正院町のカンド山武家屋敷跡（21）、正院町川尻の御山武家屋敷（27）が確認されている。カンド山武家屋敷跡では礎石や屋敷の地割などが残存している。御山武家屋敷は幕末に加賀藩が外国船による海辺防備のために派遣した藩士の生活場所と伝えられている。

引用・参考文献

珠洲市史編纂専門委員会編　1976　『珠洲市史第１巻』資料編　自然・考古・古代　石川県珠洲市役所

珠洲市市編纂専門委員会編　1980　『珠洲市史第６巻』通史・個別研究　石川県珠洲市役所

珠洲のれきし編纂委員会　2004　『珠洲のれきし』　珠洲市役所

浜野伸雄ほか　1987　『正院川尻城跡』　珠洲市教育委員会

松山温代ほか　1995　『出田遺跡』　石川県立埋蔵文化財センター

安　英樹ほか　1996　『経念遺跡』　石川県立埋蔵文化財センター

第２図　周辺の遺跡（Ｓ＝１／25,000）

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	時代	出土品	備　考
1	05121	岩坂瀬山横穴群	珠洲市岩坂町	丘陵斜面	古墳		「岩坂横穴古墳群」として市指定史跡。2基以上。1975年、市史編纂委実測。
2	05122	岡田経塚	珠洲市正院町岡田	丘陵端	不詳	須恵器、土師質小皿、銅環	火宮神社裏
3	05123	岡田横穴群	珠洲市正院町岡田	丘陵斜面	古墳		8基確認。1975年、市史編纂委は14号墓発掘調査。他3基実測。
4	05124	岩坂古墳群	珠洲市岩坂	丘陵	古墳		
5	05125	岩坂塚亀古墳群	珠洲市岩坂	丘陵	古墳		
6	05126	岩坂塚亀横穴群	珠洲市岩坂町塚亀	丘陵斜面	古墳		10基以上。1975年、市史編纂委８基実測。
7	05127	岩坂二百苅遺跡	珠洲市岩坂町	平地	古墳	土器	
8	05128	岩坂向林横穴群	珠洲市岩坂町向林	丘陵斜面	古墳	（2号墓）須恵器、直刀、鉄板	7基以上。1975年、市史編纂委2号墓発掘調査。他6基実測。
9	05129	野々江ハザノマエ横穴群	珠洲市野々江鈴の木	丘陵斜面	古墳		25基以上。（開口112）1975年、市史編纂委実測。
10	05130	野々江ミョウケン山古墳群	珠洲市野々江町	丘陵	古墳		円墳5基以上
11	05131	野々江鳥田遺跡	珠洲市野々江町	平地	古墳	土師器	
12	05132	野々江鈴海寺遺跡	珠洲市野々江町	平地	古墳	須恵器	
13	05133	野々江鈴の木遺跡	珠洲市野々江町	平地	古墳		
14	05134	熊谷神社遺跡	珠洲市熊谷町	平地	古墳		
15	05135	本江寺跡	珠洲市熊谷町	平地	寺町		
16	05136	熊谷羽黒山横穴群	珠洲市熊谷町	丘陵斜面	古墳	土師器	2基以上。（開口11）1975年、市史編纂委実測。
17	05138	正院興福寺黄檗遺跡	珠洲市正院町小路	平地	古墳	土器	
18	05139	正院鵜飼遺跡	珠洲市正院町正院	平地	中世	珠洲焼、板碑、五輪塔	
19	05140	正院小路遺跡	珠洲市正院町小路	平地	平安～中世	土師器、須恵器、珠洲焼	
20	05141	正院寺町遺跡	珠洲市正院町小路	平地	古墳	土器	
21	05142	カンドヤ山武家屋敷跡	珠洲市正院町平床	台地	江戸		礎石、屋敷の地割など残存。
22	05143	正院トノヤマ古墳	珠洲市正院町川尻	丘陵	古墳		
23	05144	黒滝経塚	珠洲市正院町川尻	山腹	中世	金仏、鐘	
24	05145	正院川尻城跡（黒滝城跡）	珠洲市正院町川尻	台地	中世		1984～86年に試掘、分布調査実施。
25	05146	正院大渡寺畑遺跡	珠洲市正院町川尻	平地	不詳		
26	05147	カリヤス坂遺跡	珠洲市正院町	丘陵斜面	寺町		
27	05148	鵜山武家屋敷	珠洲市正院町川尻	台地	江戸後期		
28	05149	飯塚1号横穴	珠洲市正院町飯塚	台地斜面	古墳		埋没
29	05150	飯塚遺跡	珠洲市正院町飯塚	丘陵	縄文	土器（中・後期）、打製石斧	
30	05151	蛸島平坂遺跡	珠洲市蛸島町	台地端	縄文	磨製石斧	

第１表　周辺の遺跡一覧表

第２章　調査の成果

第１節　調査に至る経緯と経過

昭和60年６月３日、県土木部道路建設課長から石川県立埋蔵文化財センター所長宛に県単道路改良事業（主）折戸飯田線に伴う遺跡発掘調査の依頼を受けた。依頼箇所は珠洲市正院町小路地内の主要地方道折戸飯田線であり、これを受けて同年６月14日、分布調査を実施する旨が石川県立埋蔵文化財センターから道路建設課に返答された。分布調査は折戸飯田線の西側に試掘坑26ヶ所と１×10mの試掘トレンチ１ヶ所を設定し、６月27日から29日の３日間にかけて実施された。この結果、試掘対象箇所の南側で中世の良好な遺跡を確認した他、北側の方でほぼ同時期と推定される遺物の散布が認められ、これにより、折戸飯田線両脇の800m^{2}が調査対象となった。また、調査区より北側の部分に関しては、工事の事前にトレンチ調査等を実施し、遺跡の有無を確認する必要があるとの回答がなされた。

発掘調査は昭和60年９月９日から10月８日にかけて行われた。なお、折戸飯田線の東側の調査区については、重機掘削を行った時点で遺構が確認されなかったため、記録は取らずに埋め戻された。調査区北側に関しても、明瞭な遺構が確認されず、発掘調査は実施されなかった。

第３図　調査区位置図（Ｓ＝１/3,000）

第２節　遺構と遺物

１．基本層序

基本土層は凡そ第４図のとおりである。上から耕土（約20cm）、遺物包含層（約20～25cm）、地山の３層で構成されている。分布調査により、調査区北側では遺物包含層以下に濁暗青灰色粘土層（約30cm、泥炭層）と濁灰白色粘土層を含む５層で構成される様子が確認されている。泥炭層は厚く堆積しており、調査区北側は沼状の旧地形が想定される。調査所見では、確認された遺物包含層は河川の氾濫やラグーンによって堆積したような印象を受けたとのことである。

２．遺構と遺物

本遺跡は中世の集落跡である。遺構検出面は標高3.7～3.8mを測り、調査区南側に向けて若干低くなる。遺構の覆土は黒灰色砂混じりの粘土、地山は褐色砂及び淡灰褐色砂である。検出した遺構は溝２条とピット６基であり、遺構密度は低い。検出したピットは径約30～70cm、深さ約10cmを測る。溝は深さ約20cmである。

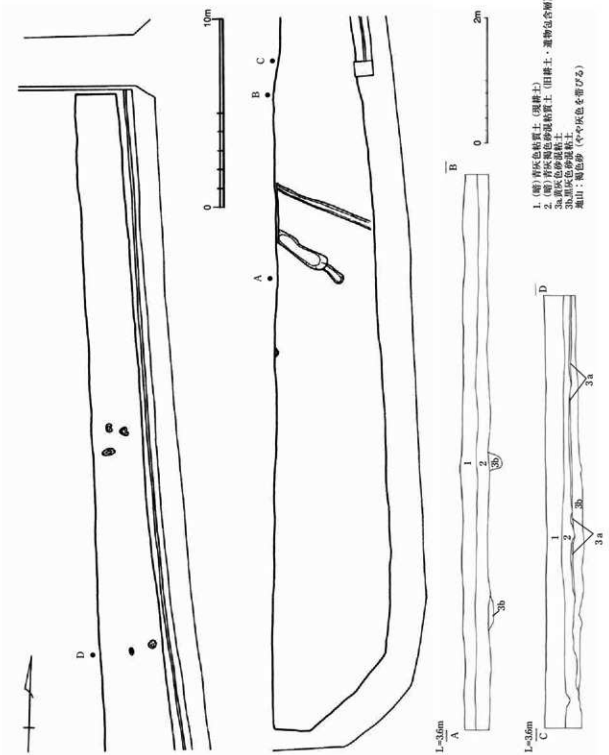
遺物は珠洲焼を中心に須恵器、土師器、近世陶磁器などがパンケース１箱分出土している。遺構出土のものはなく、図化した遺物30点は全て第２層（遺物包含層）から出土したものである。最も多く見られるのは珠洲焼の甕・鉢であるが、これらは胴体部の破片が多く、全形を知る資料が少ないため、時期の特定が困難である。第５図４・10・21等の資料により、遺物包含層から出土した珠洲焼は吉岡編年Ⅳ～Ⅵ期に属し、時期は14～15世紀頃と推定される。その他の遺物は数が少なく、散在的に出土しているような状況である。須恵器（第５図１～３）は古代、中世土師器（第６図26・27）は16世紀代、陶磁器（第６図29・30）は17世紀前半のものと思われる。破片のため図化はできなかったが、青磁や瀬戸、越前が僅かに出土している。また、中世のものと思われる土錘が１点出土している。

第３章　まとめ

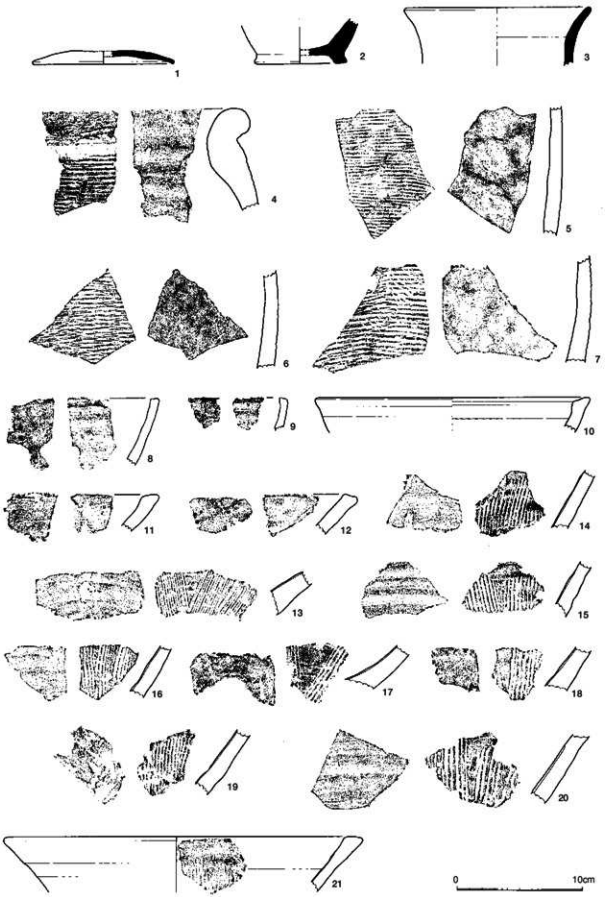
今回、珠洲焼を中心とした遺物が包含層から出土したものの、明確な遺構は検出されなかった。これにより、調査区は遺跡の縁辺部に当たり、中世の集落が調査区周辺に存在することが想定される。調査に先立つ試掘調査では厚く堆積する泥炭層が調査区北側で確認されており、沼状地形が広がっていたと推定される。また、当遺跡は隣接する中世若山荘との境界とされた金川から東に約250mの距離に位置し、調査区周辺が正院郷の西端部に相当するものと思われる。「正院」の名称は古くから文献上にあらわれるにも関わらず、周辺では古代を含め、明確な集落跡が確認されていない。以上のことから、遺跡の本体は調査区南側の現集落にかかる部分に存在することが考えられる。

参考文献

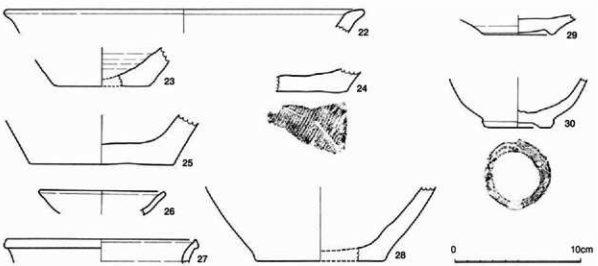
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館



第４図　遺構実測図（Ｓ＝１/200・60）



第5図　遺物実測図1（S＝1/3）



第6図　遺物実測図2（S＝1/3）

報告番号	材質器種	出土地点	口径	底径	器高	色調 内	色調 外	胎土	焼成	調整 内	調整 外	実測番号	備考
1	須恵器 壺	W－1 区第2層	[11.4]	－	(1.1)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	3	
2	須恵器 鉢・壺	W－2 区第2層	－	[7.4]	(3.7)	灰白	灰白	0.5mm前後の砂粒多、3～5mmの礫少	不良	ロクロナデ	ロクロナデ	20	
3	須恵器 鉢	W－6 区第2層	[14.8]	－	(4.8)	黒灰	黒灰	0.5mm以下の砂粒多	良	ロクロナデ	ロクロナデ	26	
4	珠洲焼 壺	W－1 区第2層	－	－	(8.4)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒、2～3mmの礫多	良	ヨコナデ	ヨコナデ,タタキ	1	
5	珠洲焼 壺	W－1 区第2層	－	－	(10.5)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒多	良	タタキ	タタキ	5	
6	珠洲焼 壺	W－1 区第2層	－	－	(7.7)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒多、1mm前後の礫少	良	ナデ	タタキ	13	
7	珠洲焼 壺	W－6 区第2層	－	－	(6.6)	黄灰	黄灰	1mm前後の砂粒多	不良	ナデ	タタキ	30	
8	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(5.4)	灰	灰白	0.5mm以下、1mm前後の砂粒少、1～2mmの礫少	良	ヨコナデ	ヨコナデ	8	
9	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(2.7)	灰	灰	0.5mm前後の砂粒少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	10	
10	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	[22.0]	－	(2.8)	灰	灰	0.5mm前後の砂粒少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	11	
11	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(3.3)	灰白	灰	0.5mm前後の砂粒少、2～3mmの礫多	良	ナデ	ナデ	14	
12	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(3.7)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒少	良	ナデ	ナデ	15	
13	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(3.5)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	2	おろし目磨耗
14	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(4.8)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒、1mm前後の礫少	良	ナデ	ナデ	4	
15	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(4.0)	灰	灰	0.5mm前後の砂粒多	良	ロクロナデ	ロクロナデ	7	
16	珠洲焼 鉢	W－1 区第2層	－	－	(4.2)	灰	黒灰	1mm前後の礫少	良	ナデ	ナデ	9	
17	珠洲焼 鉢	W－3 区第2層	－	－	(3.5)	灰褐	にぶい橙	0.5mm以下の砂粒多、2～3mmの礫少	不良	ロクロナデ	ロクロナデ	18	内面磨耗
18	珠洲焼 鉢	W－2 区第2層	－	－	(3.6)	灰白	灰白	0.5mm以下の砂粒多	不良	ヨコナデ	ヨコナデ	19	
19	珠洲焼 鉢	W－2 区第2層	－	－	(5.2)	灰白	灰	0.5mm以下の砂粒多、5mm前後の礫少	良	ナデ	ナデ	21	
20	珠洲焼 鉢	W－3 区第2層	－	－	(5.6)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒、3mm前後の礫少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	23	
21	珠洲焼 鉢	W－7 区第2層	[28.0]	－	(4.5)	灰	灰	0.5mm前後の砂粒少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	28	
22	珠洲焼 鉢	W－7 区第2層	[28.5]	－	(1.9)	灰	灰	0.5mm前後の砂粒、石英粒多	良	ロクロナデ	ロクロナデ	29	
23	珠洲焼 壺	W－2 区第2層	－	[7.8]	(5.1)	灰白	灰白	0.5mm以下の砂粒少	良	ヨコナデ	ナデ	16	外面磨耗
24	珠洲焼 壺？	W－6 区第2層	－	(5.8)	(1.9)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒少	良	ヨコナデ	ヨコナデ	25	底部／静止糸切り痕
25	珠洲焼 壺・甕	W－5 区第2層	－	[11.7]	(4.0)	灰	灰	0.5mm以下の砂粒、5mm以下の礫少	良	ナデ	ナデ	24	
26	土師器 皿	W－1 区第2層	[10.0]	－	(1.9)	にぶい橙	にぶい橙	0.5mm前後の砂粒少	良	ヨコナデ	ヨコナデ	6	灯明皿（内面にススけ有）
27	土師器 椀・皿	W－1 区第2層	[15.2]	－	(1.8)	浅黄	浅黄	0.5mm前後の砂粒多、海面骨片少	良	不明	不明	12	磨耗著しい
28	瓦質土器 鉢	W－2 区第2層	－	[10.4]	(6.0)	灰黒	灰白	0.5mm以下の砂粒多	不良	不明	不明	17	磨耗著しい
29	越中瀬戸 皿	W－2 区第2層	－	[5.5]	(1.6)	褐灰	にぶい橙	0.5mm以下多、2～3mmの礫少	良	ロクロナデ、施釉（鉄釉・赤褐）	ロクロナデ	22	付高台、釉止めあり
30	唐津焼	W－6 区第2層	－	[5.4]	(4.1)	オリーブ灰	オリーブ灰	素地・砂粒を殆ど含まない	良	施釉（オリーブ灰）	施釉（オリーブ灰）	27	高台／糸切り

第2表　土器観察表

調査着手前（北から）

表土除去風景

図版 2

調査風景（南から）

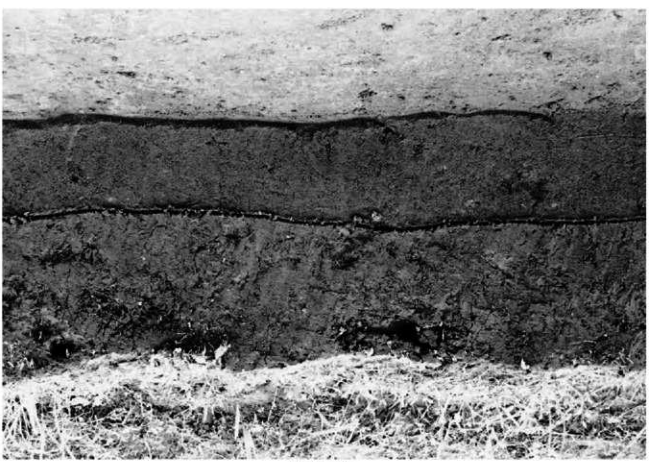
溝の完掘状況（東から）

遺跡全景 1（南から）

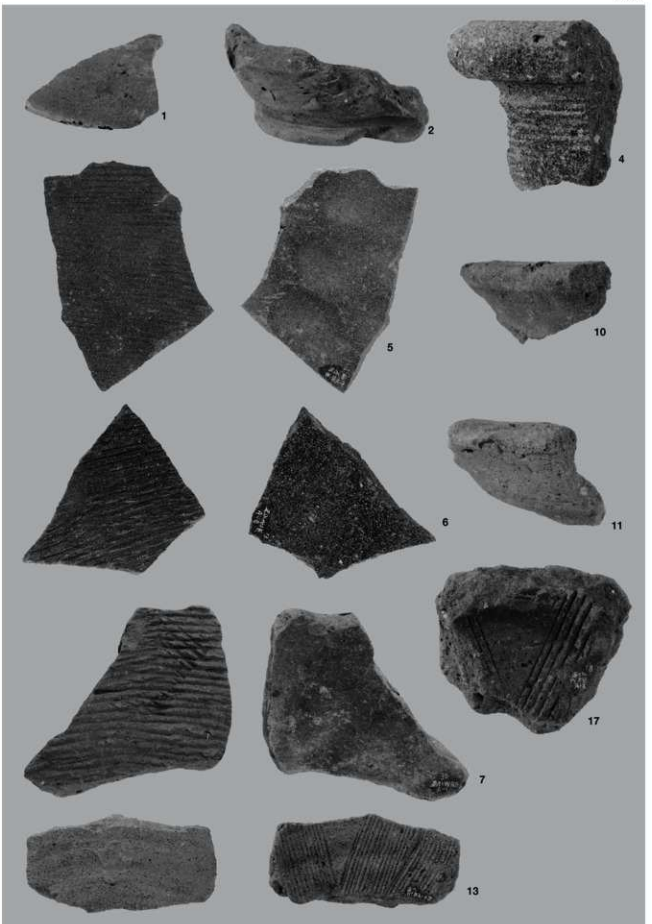
遺跡全景 2（北から）

図版 4

調査区西壁 1

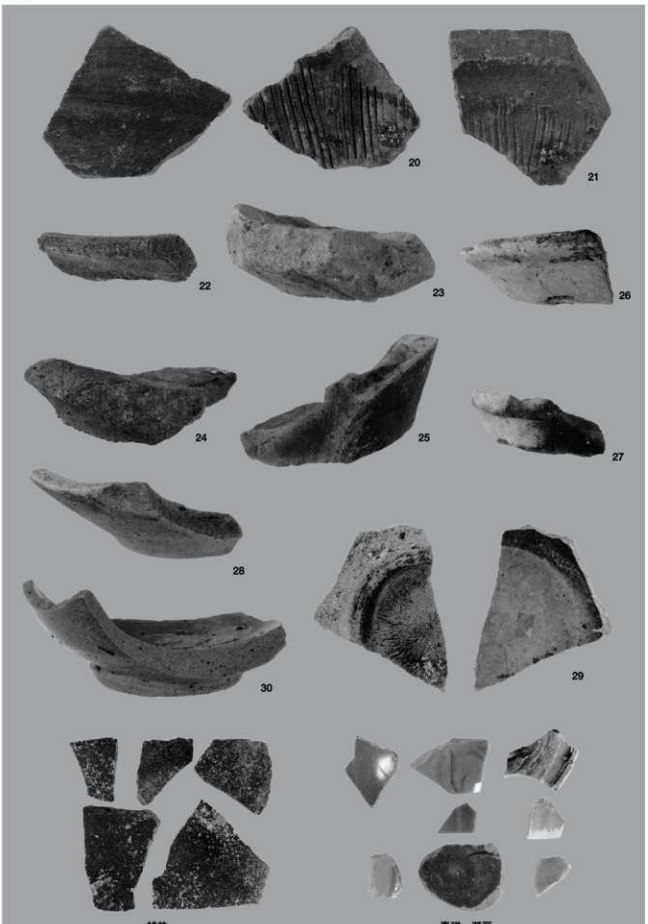


調査区西壁 2



出土遺物 1

図版 6



出土遺物 2

報告書抄録

ふりがな	しょういんこうじいせき
書名	正院小路遺跡
副書名	県単道路改良事業(主)折戸飯田線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山田由布子
編集機関	財団法人　石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地１　TEL 076－229－4477
発行機関	石川県教育委員会・財団法人　石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	西暦2007年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
正院小路 (しょういんこうじ) 遺跡 (いせき)	石川県珠洲市 (いしかわけん すずし) 正院町小路 (しょういんまちこうじ)	172057	05140	37度 26分 59秒	136度 17分 21秒	1985. 9. 9 ～ 1985.10. 8	800㎡	県単道路改良事業（主）折戸飯田線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
正院小路遺跡	集落跡	中世	溝、ピット	珠洲焼、中世土師器、陶磁器	

要約

遺跡は砂丘地から後背湿地への境界付近に立地する。遺構密度は極めて低く、検出した遺構は溝２条、ピット６基である。遺構からの出土遺物はないが、遺物包含層から14～15世紀頃の珠洲焼が出土しており、付近にこの時期の集落が存在した可能性が高い。なお、調査区北側は沼状の旧地形が広がっていることが想定され、遺跡の本体は現集落にかかる調査区南側に存在することが推定される。

珠洲市　正院小路遺跡

発行日　平成19（2007）年３月31日

発行者　石川県教育委員会
〒920－8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
電話　076－225－1842（文化財課）

財団法人　石川県埋蔵文化財センター
〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地１
電話　076－229－4477
E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷　株式会社 橋本確文堂